



小田小だより

平成26年 5月号

〒236-0052 横浜市金沢区富岡西1丁目6-9番1号 TEL 045(775)3011

<http://www-local.edu.city.yokohama.jp/sch/es/koda/>

横浜市立小田小学校



学校と家庭と地域が手を携えて

～ ランドセルが運んでいるものに思いを寄せて ～

学校長 木村 昭雄

「万緑満てる」という言葉がありますが、1年のうちでもっとも爽やかとされる季節となりました。ちょうどいい湿度と気温、そして「緑」という色彩が最も似合う季節です。子どもたちは新しい学年になり、早くも一ヶ月が経過しました。爽やかな風の中で、子どもたちの元気な活動の様子や、笑顔、楽しい歓声は、学校全体に「生きる力」を与えています。まさに、若葉のような緑に満ちた、そのみずみずしさと躍動感で、これからは毎日を元気に過ごしてほしいと願っています。

5月5日は「こどもの日」です。端午の節句ともいいます。こいのぼりのほかに、部屋によろいかぶとや五月人形を飾るご家庭もあることでしょう。一人親のご家庭にも思いを寄せながら、男の子、女の子にかかわらず、「こどもの日」を前にして一篇の作文をご紹介します。たった十五行の作文ではありますが、そこには、両手に余るほどの示唆が含まれているように思えてなりません。どうかお読みください。

ぼくのお父さんは、五月ごろから

「かたがいたい。」

というようになりました。

それでぼくは、お父さんから、おきゅうをするやく目をにんめいされました。

ある日、ぼくが、おきゅうをしていると、よこにすわっていたいもうとが、

「かんじざいぼさつ」

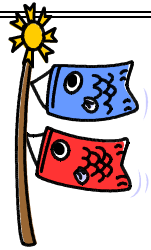
と言っておがんでいるではありませんか。

たぶん、おばあちゃんの家で、おぶつだんにおせんこうをあげたときのけむりと にていたので、おがんだのだと思いました。

ぼくは大わらいしたあと、いもうとのまねをしておがみました。お母さんを見ると、同じようにわらいながら、お父さんのせ中に手をあわせています。

そんなことがあってから、お父さんには、あついあついおきゅうですが、かぞくみんなで「かんじざいぼさつ」

とおがみながらのたのしいたのしいおきゅうタイムになりました。



これは、ある教育月刊誌に掲載された2年生の子どもが書いた作文です。小学校に入学して1年が経つと、こんなにも素敵な文章を書くことができるようになるのだと、子どもの成長に驚かされます。入学以来一年間で、字の習得をはじめ、多くの知識や技能などを身に付けます。この原文は、日記に書かれていたものを、担任が「この子にしか書けない」価値のある内容と考え、学校で作文に仕上げさせたそうです。しかし、内容は学校生活では得ることができないものです。家族のあたたかさやユーモアが感じられます。そして、真心と遊び心が溶け合った表現となっています。また、書かれていないお父さんの表情やおばあちゃんの家での経験も想像できます。

子どもたちは、さまざまな家庭環境や置かれた境遇を背負って学校へ通ってきます。ランドセルは、教科書などの学用品に加え、喜びや悲しみも運んでいるのです。私たち教職員は、このことを理解し受け止めながら、日々の教育活動を進めていかなければなりません。

家庭と地域は、学校で得た学びに息を吹き込む場所となります。学校と家庭をランドセルを背負って行きつ戻りつしながら、時には家庭で、時には地域で、子どもたちは学びを血肉としています。そして、いつの間にか、確実に自己を高みへ引き上げていくのです。学校と家庭、この二つの場所は子どもにとって格別に意味のある場所なのです。

教職員も子どもたちとの新しい出会いがあり、喜びと緊張の時を迎えてから一ヶ月がたちました。学校は、これからもこの出会いを大切にしながら家庭と地域と手を携えて、もてる力を精一杯発揮していきたいと思えます。どうぞよろしく願い申し上げます。